

干しいも用品種「ほしこがね」の後期裂開発生低減技術

[要約]

干しいも用品種「ほしこがね」の後期裂開症状は、黒マルチ栽培をすること、挿苗時期を早めること、収穫時期を早めることで、発生を低減できる。

農業総合センター農業研究所	平成29年度	成果 区分	技術情報
---------------	--------	----------	------

1. 背景・ねらい

サツマイモの塊根は割れながら肥大し、大きく割れた場合は、表面を修復しながら肥大を続ける。一方、干しいも用品種「ほしこがね」は、生育後半に塊根表面が大きく裂ける後期裂開（図1）の発生が多く、加工歩留の低下や貯蔵腐敗の原因となるため、問題となっている。そこで後期裂開症状の発生要因を解明し、発生低減技術を確立する。

2. 成果の内容・特徴

1) 後期裂開症状はマルチ栽培をすることで大幅に低減できる。また、挿苗時期が遅くなること、収穫時期が遅くなることで増加し、特に、無マルチ栽培では、これらの影響が強く現れる（図2）。

2) 上記の3要因を組み合わせた栽培条件では、後期裂開症状の発生を低減することができ、上いも収量も増加する（表1）。

3. 成果の活用面・留意点

1) 農業研究所内圃場（表層腐植質黒ボク土）における結果である。黒ポリマルチを使用して栽培した。

4. 具体的データ



図1 ほしこがねで発生する後期裂開

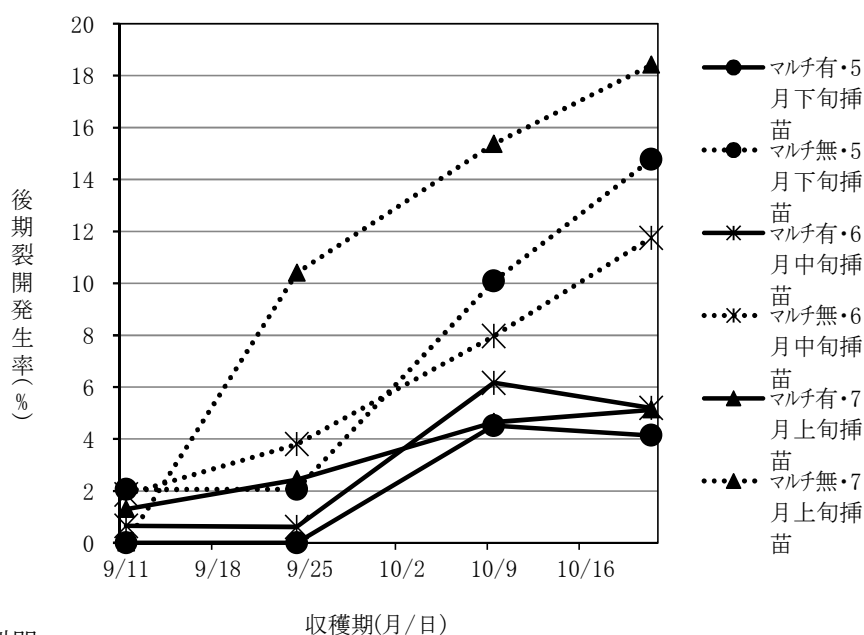


図2 後期裂開発生率の推移
(H26~H27.2 かん年平均)

注) 耕種概要 H26: 施肥量(kg/a) N:P₂O₅:K₂O=0.1:1.2:1.0
 H27: 施肥量(kg/a) N:P₂O₅:K₂O=0.2:1.2:1.0
 いずれも栽植密度 400 本/a(畝間 100cm、株間 25cm)

表1 後期裂開発生要因確認試験(H29)

試験区名	栽培条件				上いも			後期裂開発生率 (%)
	マルチの有無	挿苗日	収穫日	在圃日数	収量 (kg/a)	1個重 (g)	株当たり個数 (個)	
黒マルチ	有	5/31	10/23	145日	465	313	3.7	4.8
黒マルチ+早植え+早掘り	有	5/19	10/6	140日	514	355	3.6	2.7
無マルチ+遅植え+遅掘り	無	6/28	11/6	131日	163	134	3.1	36.1
慣行区	無	5/31	10/23	145日	299	250	3.0	21.6

注1) 栽植密度: 400本/a (畝間100cm、株間25cm) 施肥量 (kg/a) : N : P₂O₅ : K₂O=0.3:1.0:1.0

注2) 上いもは50g以上のいもを表す

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

カンショ「べにはるか」及び干しいも用新品種「ほしこがね」の高品質安定栽培技術の確立・平成26年度・作物研究室

干しいも新品種の栽培・糖化特性および変色要因の解明・平成27年度~平成29年度・作物研究室、園芸研究所流通加工研究室